

## 児童健全育成賞（數納賞）佳 作

# お母さんの『こうだったらいいのにな』を叶える －特定非営利活動法人 i i t o k o の活動－

群馬県高崎市

特定非営利活動法人 i i t o k o スタッフ 嘉 部 真 澄

私たち、特定非営利活動法人 i i t o k o は、障がいを抱えるお子さんのお母さんを支援しています。お母さんの癒しの場所、お母さんの「こうだったらいいのにな」を叶えるために何をしたらいいのか？どんなことがお母さんの笑顔に繋がるのか？を考えながら活動しています。子育てをしている時、ふと立ち止まることがあります。小さな悩みからとても大きな悩みまで、色々なことで頭がいっぱいになり、気付くと笑顔がなくなっていたり、子どもの行動にイライラしたりということがあります。少しの間でもいいから外に出たい、誰かに話を聞いてもらいたい…そんな時、誰かにほんの少し手助けをしてもらうと、自分の中に優しさが戻って来る。子どもたちは、笑っているお母さんが大好きです。お母さんが悩みを打ち明け、同じ思いを抱えるお母さん同士が話し合えて、一緒に来ている子どもたちが思いっきり遊べる。そんな『お母さんの実家のような存在』になりたいと考えています。発足から4年続いている私たちの活動をご紹介します。

一番依頼の多い活動が『 i i t o k o カット』です。今現在、40組のご利用があります。じつとしていることが苦手、体に触れられることが苦手なお子さんは、美容室に行って髪をカットしてもらうことはとても難しいです。連れて行つても断られたり、途中で諦めなければいけなかつたりすると、自宅の風呂場でお子さんを泣かせ

ながら、母親自らカットすることになるため、お母さんの負担はとても大きくなります。 i i t o k o カットは、本職の美容師が i i t o k o に向き、道具を見せたり言葉掛けをしながら、カットする環境や雰囲気に慣れるまで時間をかけています。首元を触られるのが嫌なお子さんは、皮膚過敏さからほんの少し触れただけでもパニックを起こすことがありますので、様子を見ながらカットしていきます。 i i t o k o カットをご利用になったご家族は、「初めて子どもの髪を美容師さんに切ってもらえた」「いつも真っ直ぐ切るのがやっとだったけれど、こんなにキレイに切ってもらえた」と、とても喜んでくださいます。特別支援学校に通う男児が以前から i i t o k o カットを利用しており、そのお子さんのヘアカットの素敵さから、保健の先生が保健室だよりで取り上げてくださいました。それを見た他の児童のご家族からもカットの依頼がありました。ダウン症の男の子で、床屋さんに行っていましたが、お父さんが抱っこして抑えることが難しくなってしまったとのこと。その子は何が苦手で何が嫌なのか？を見極めたり、美容師の、ある程度『待つ』という時間を作ったり、それは i i t o k o カットを進めるうえでとても重要です。 i i t o k o カットに来て良かった、楽しかった、次回も i i t o k o でカットしてほしい、と思って帰つてもらえるよう配慮しています。 i i t o k o カッ

トの目的は、i i t o k oでカットすることに慣れたら、i i t o k oの美容師のお店でのカットを体験し、最終的には地域の美容室や床屋に出向いて行けるようになります。埼玉県から来てくださるお子さんは自閉症です。毎回カットが終わると、鏡を見て泣いています。言葉の無いお子さんなので、お母さん手作りの三択ボードを指さしながら、その時の感情表現をします。かっこいい、ちょっと変、すごく嫌だ、などカットした後の自分がどうなのか？気持ちを伝えてくれるのです。もちろん、「かっこいい」を伝えてくれます。そのお子さんは、現在、美容師のお店でカットしています。美容師は、いずれ埼玉から電車に乗って高崎まで来れるのではないか、という提案をしました。お母さんは、自閉症であるわが子の成長を夢見ても良いのか、と思ったそうです。障がいを持っていても、経験し、成長していきます。今までは一日一日を過ごすのが精一杯だったお母さんたちが、i i t o k oカットを通して、お子さんの成長を感じ、笑顔になってくれたら、とても嬉しいです。

次にご紹介したいのが、『あそびのひろば&i i t o k oキッチン』です。毎週金曜日から日曜日の10時から13時に開催しています。子どもたちを遊ばせる場所に困ったら来れるところです。i i t o k oは、空き家となっていた民家をお借りしています。もともと日本舞踊の教室をされていたお宅なので、約20畳の広々としたお部屋があり、冬にはあたたかい陽ざしの入る、おばあちゃん家のようなところです。おもちゃで遊んだり、工作をしたり、絵を描いたりしています。広いので走り回るお子さんもいます。また、部屋の一角には、たくさんの方に寄付していただいた絵本や書籍などをゆっくり読めるスペースを設けています。お母さんは、手作りしていただいた大きな木のテーブル、長椅子で美味しいコーヒーを飲んだり、お菓子を食べたりしながらひと休み。お母さん同士、子育てについての相談など、自由気ままにお話しできる空間です。昼12時からはi i t o k oキッチンの時間。材料は、フードバンクさん

から寄付していただいたり、農家の父ちゃん会さんが自家栽培し寄付してくださる季節の野菜をふんだんに使わせていただいたりしています。お子さんのこだわりや偏食にもできるだけ合わせています。外食ができないご家庭も多いので、ちょっとしたファミリーレストランに来ているような、それでいて家庭の味を忘れず、毎回心を込めてお作りしています。自宅ではさせてあげられないお手伝いも、i i t o k oキッチンではスタッフ付き添いのもとでできますので、大きくなったらコックさんになりたい！と言うお子さんもいます。前橋市から来て下さるご兄弟は、長男が重度の自閉症、三男はまだ小さくとても手がかかります。次男は健常ですが、兄中心の生活になるので外食はできません。i i t o k oキッチンに来るまでハンバーガーというものを知りませんでした。丸い形をしたパンの間に、ハンバーグや野菜を挟んだものを見て、とても喜んでいたのです。お母さんも、ハンバーガーを作りできることに驚かれていました。視覚優先で、白いものしか食べられない、麺しか食べられないというこだわりや、口の中が敏感なお子さんもいます。お母さんの中には、子どもから目を離すことができないため、危なくて天ぷらをしたことがないという方もいます。子どもに手がかかりすぎるので、作りたくても作る気力も体力も無くなってしまうお母さんが多いのも事実です。「手作りで、あたたかいものを、あたたかいうちに食べられるのはいつぶりだろう」…そう涙を流すお母さんもいます。そういうことをフォローする食事内容を考え提供しているi i t o k oキッチンは、現在では利用者が増え、多い時には7組の親子が訪れます。今後は地域のみんなの食堂として活動し、家庭で食事ができない子どもや、食べたくても食べられない子どもが気兼ねなく来れるような場所にもなることが目標です。

i i t o k oでは、『いいとこ塾』『出張いいとこ塾』という講演会、勉強会も行っています。行政・地域・学校・医療、子育てをしているお母さんに焦点を当て、障がいへの理解と支援を

深めるための勉強会です。1年に3～4回ほど行っているもので、障がい理解に熱い、福祉や医療の専門家、地域で活動する方などをお招きしています。今年の7月には、桐生市市民文化会館で出張いいとこ塾を開催しました。社会福祉士で、ADHDのお子さんを持つお父さん、ご自分でサロンを立ち上げ、アスペルガーのお子さんを持つお母さん、手作りのバッチで障がい理解への取り組みを続け、発達・身体に障害を持つお子さんのお母さん、ご自身は健常で、実兄が障がいを持つお母さんなど、さまざまな立場から障がいを考えるパネルディスカッションを行ないました。障がい児を持ちながら社会福祉士として働く現実や葛藤、障がいがあることで、学校や行政への対処に苦悩する毎日、障がいのある「きょうだい」を中心に回る生活… i i t o k o キッチンでご紹介した兄弟を含め、「きょうだい」支援の大切さにも気付かされる講演会でした。他にも、子育てアドバイザーの方をお招きし、シリーズとして講演していただいたり、行政や放課後デイサービスなど施設への手続きの方法などのお話、グループホーム理事長による心の成長と自立のお話などもありました。昨年の5月には、『農福連携』をテーマにし、大手牛丼チェーン店関係者やグループホーム経営者を中心に、講演会とパネルディスカッションを行いました。農業と福祉がどのようにつながっていくのか、障がいを持つ方が社会へ出ていくために今後どんな支援が必要なのかななど、さまざまなテーマを考え、多方面からアプローチするようにしています。このように、拠点を使用したり、各地の会場に赴いて勉強会を行うことで『育てやすい地域・わかりやすい行政・つながり合える学校・支え合えるやさしい社会づくり』を取り組んでいます。

髪の毛のカット、食事や料理の悩みを解消し、専門家のお話を聞いて勉強したあとは、お母さんもお子さんも思いっきり楽しみたいところです。実は、i i t o k o カット美容師は、バンドのボーカルとしても活動しています。自閉症である、友人の息子さんのことを唄った『R y

o君のプロペラ機』は、i i t o k o のテーマソングになっています。ふとした思い付きから、同じように音楽活動をしている仲間たちが賛同し、『障がいがあっても大人もコドモも、みんなでロケンロー！』というイベントが始まりました。障がいがあっても関係ない、おじいちゃん、おばあちゃんからお子さんまで、誰でも参加型のダンスパーティーです。にぎやかに、時には優しく、生演奏に合わせ、ロックンロールでツイストを踊る。大型紙芝居や絵本の読み聞かせ、歌い聞かせ、手遊びなど、みんなが一緒に楽しめるイベントです。「参加したいけれど、遠くて行けない」という声もあり、毎年、開催場所を変えてています。2016年は群馬県藤岡市、2017年は富岡市、そして今年は桐生市で開催しました。i i t o k o の仲間たちが飲食店や雑貨店を出店したり、i i t o k o ショップとして、i i t o k o TシャツやCD、手作りマスクの販売、けんちん汁やカレーなどを安価で提供しています。藤岡市は約600名、富岡市は約250名、桐生市では約200名の方がお越しくださいました。聴覚障害をお持ちの方のために、3年間、手話通訳者の派遣をお願いしてきました。音の振動が触れて分かるようにたくさんの風船を膨らませ、会場の壁に貼り付けました。歩行が困難であったり、身心に障がいがある方は、バンドメンバーやスタッフが手を引き輪の中へ入れるようにお手伝いします。スタッフだけでは対応しきれないところは、その地域の高校からボランティアを派遣していただきたり、有志のみなさんが駐車場整理を買って出てくださいます。今年は、桐生第一高等学校JRC部の生徒さんにお手伝いいただきました。機敏で、気遣いの上手な若者が現場で活躍する姿はとても頼もしいです。毎年開催場所を変え、その地域の方々にi i t o k o という団体を知っていただき、障がいの有無や年齢、性別に関係なく、同じ空間で、同じように楽しむということを体感して欲しいのです。そして、ダンスパーティーが終わる頃には、なんだかやさしい気持ちになっている…にぎやかだ

けど、ロックンロールだけど、ほんわか心温まるそんなイベントです。

にぎやかなダンスパーティーだけでなく、ヴァイオリンやピアノなど、クラシックを楽しめる音楽イベントもあります。『i i t o k o チャリティー音楽会』です。このイベントが開催されるまでには、とても長いきさつがあります。スタッフである私は、スタジオジブリの大ファンでした。ジブリの音楽や世界観が大好きで、その音楽制作を担当する久石譲さんに憧れていきました。ところが、疲れからパニック障害を発症します。一人で自宅にいる間もパニックの发作に耐え、このまま生きて行けるのか…生きていてもしようがないんじゃないか…将来を悲観するようになっていました。そんな時、少しでも気を紛らそと、ある動画を觀ます。久石譲さんが音楽監督を務める新日本フィル・ワールド・ドリーム・オーケストラの日本武道館コンサートでした。ジブリ音楽の集大成。聴こえてくる楽器の音色、演奏する団員の姿に涙が流れました。200名を超えるオーケストラを束ねるコンサートマスターは、世界的マエストロ小澤征爾さんのオーケストラでも活躍する、ヴァイオリニスト豊嶋泰嗣さん。その演奏に魅了された私は一通の手紙を書きます。i i t o k o というボランティア団体で、障がい児を持つお母さんの支援をしていること、障がいがあっても気兼ねなく行けるクラシックコンサートを開いてみたい、と夢見ていることなど、豊嶋さんとi i t o k oへの想いを書き綴りました。数か月後、都内で開かれた豊嶋さんのソロリサイタルに行きました。パニック発作に怯えながらも、何としても行きたい！と覚悟を決めての外出でした。一流の演奏を聴いたあと、豊嶋さんとお話しする機会がありました。手紙を出したことを伝えました。「高崎の方ですよね？」覚えていてくださいました。そして、「機会があれば是非コンサートを開きたい」と言ってくださったのです。その余韻を残したまま2か月後、突然、豊嶋さんから連絡をいただきました。5月に、「水戸で小澤征爾さんのコンサートがあり、

その中日に高崎まで行けそうです」と。そこから、初めてのチャリティーコンサートへ向けての準備が始まりました。2017年は高崎市総合福祉センターたまごホール、今年は前橋市の群馬会館と、2回開催することができました。このチャリティーコンサートは、ボランティア団体であるi i t o k o が長く活動を続けていくように、と豊嶋さんのご厚意により、クラシックでは破格の入場料で開催しています。『i i t o k o チャリティー音楽会実行委員会』を中心に準備を進め、コンサートは二部形式で行われます。一部は、本格的なクラシックの演奏、二部は、大人も子どもも一度は聴いたことがあるようなアニメの曲などを演奏してくださいます。豊嶋さんはコンサートを開くことで、来てくださったお客様にi i t o k o を知ってもらえる、i i t o k o がどんな想いを持って活動しているか伝えることができる、そのお手伝いができるのであれば、と引き受けてくださいました。みなさまからの善意は、i i t o k o の活動資金の一部に充てさせていただいています。『障がいがあってもなくても大人も子供も』誰でも楽しめるクラシックの演奏会。敷居が高いと思われがちなクラシックをもっと身近に、赤ちゃんが泣いても大丈夫、じっとしていられず走り回っても大丈夫なコンサートはなかなかありません。そして、とても素晴らしいピアニストがいます。田中慎吾さんは、自閉症と知的障害というハンディキャップを持ちながらも、毎回違う曲に挑戦しています。慎吾さんは、小さい頃お母さんの運転する車の座席に座り、ある曲を聴いていました。お母さんは、物事にあまり興味を示さなかった慎吾さんが泣いていることに気付きます。この子には音楽が合っているのかもしれない…近所でピアノ教室を開いている先生に相談しました。快くレッスンを引き受けくださいました。それからずっとレッスンを続け、大きな会場で演奏するまでになりました。慎吾さんの黙々とピアノに向かう姿、一音一音を丁寧に弾くしなやかな指先、人柄を感じさせる素直な音は、たくさんの人に感動を

与えます。慎吾さんの新しい曲に挑戦する姿が、同じように障がいを持つ方の生きる活力になってほしいのです。しっかりととしたクラシック、慎吾さんのピアノ演奏のあとは、少し力を抜いて、小さいお子さんが飽きないように…そんな雰囲気を作り出してくれるのが、ダンスパーティーでも活躍する i i t o k o 応援団です。主に、i i t o k o のイベントの時に結成される『i i t o k o スペシャルバンド』、続いて、絵本の読み聞かせ、歌い聞かせで場を和ませてくれるパワフルお母さん軍団『ビンテージマム』さんの登場。『おおきなかぶ』や『ワニのかぞく』などの手遊び、歌遊びの時には客席の子どもたちもステージへ上がります。まだか、まだかとその時を待っているお子さんもたくさんいて、ステージ上は大人も子どもも入り乱れています。ステージに上がって一緒に歌ったり踊ったりしたい！そう思わせるみなさんは、とても素晴らしい応援団であり仲間です。「来て良かった」「楽しかった」「ありがとう」「次はいつやるの？」というお客様の声は、スタッフ全員の活力となっています。

i i t o k o は、活動を始めた平成27年1月30日のオープンイベントから、毎年周年祭を開催しています。i i t o k o の活動を理解し、受け入れて下さった地域の方々やご近所のみなさま、設立当初から支えて下さるみなさまへ感謝の気持ちを込めて、おもてなしをさせていただくものです。オープンイベントの時には、町内婦人会のみなさんが、すいとんを作つて協力してくださいました。他にも、i i t o k o キッチン担当のスタッフを中心に、けんちん汁や天ぷら、うどんなどのおもてなしをしています。催し物として、室内では、イベントで活躍するバンドのみなさんが演奏したり、歌を歌つたり、大家さんが生前、交流のあった近所のみなさんが、日本舞踊を披露してくださったりします。地元で人気の人形劇やエプロンシアター、落語、フラダンス、読み聞かせや歌い聞かせなど盛りだくさんです。i i t o k o 庭では、地元小学生によるソーラン節を皮切りに、お菓子

やお米、自家栽培の野菜、手作りマスクなど雑貨の出店もあります。今年のトリは、琉球太鼓のみなさんによるエイサーを披露していただきました。地域の寺院や、ご近所のみなさんにお願いして駐車場を確保しています。駐車場案内や受付、配膳などで人手が足りない時には、市内の専門学校や大学からボランティアを派遣していただき対応しています。毎年たくさんのお客さまが来てくださり、感謝の気持ちをお伝えできる周年祭は、私たちにとってとても大切な行事の一つとなっています。

i i t o k o では、講演会とは違つて、和やかな雰囲気の中で自由気ままにおしゃべりしながら行うミニ勉強会『お母さんの集い』も開催しています。先日は鍼灸治療室の先生をお招きして、自宅でできるセルフお灸の仕方やツボの場所を教えていただきました。フラワーショップ経営の方にお花の生け方を教えていただいたり、母の日やクリスマスに合わせて、フラワー アレンジメントを教えていただいたこともあります。また、二級建築士で発達障害住環境サポートの久保かをるさんによるおかたづけ講座では、お部屋の棚の収納から冷蔵庫の整理の仕方などを勉強しました。他にも、音楽療法とはどんなものなのかを体験したり、寒い時期の代謝アップ法、布芝居、怒りのコントロール、i i t o k o イベントで活躍するビンテージマムさんによるステージを始めとしたクリスマス会やお楽しみ会など内容はさまざまです。ビンテージマムさんのステージでは、お母さん方も、曲に合わせて手話をしたり、一緒に歌つたりしています。日頃から知っていると役に立つことから、ホッとひと息、楽しめることまで、お母さんがゆつたりできるのが『お母さんの集い』です。

先ほどご紹介した、怒りのコントロールのお話をしてくださいたのが、N P O 法人日本ゲートキーパー協会理事の大小原利信さんです。i i t o k o でも『ゲートキーパー養成講座』を開催していただき、悩んでいる人の話を『聞く』ということ、その人の気持ちに寄り添うことな

## お母さんの『こうだったらいいのにな』を叶える

ど、味方になりきるコミュニケーションの仕方を教えていただいている。その日本ゲートキーパー協会さまと共に毎年開催しているのが『みんなの学校』上映会＆講演会です。この映画は、大阪府の大空小学校が舞台となっています。この小学校の初代校長先生である木村泰子さんが、「みんながつくる、みんなの学校」（著書「みんなの学校が教えてくれたこと」小学館刊より引用）を合言葉に、子どもにとっての学校教育の在り方や、生徒との関わり、担任制ではなく担当制にすること、保護者や地域との連携など、大空小学校の1年間に密着したドキュメンタリー映画です。i i t o k o 代表の浅香が、以前この映画を観たことがあります。内容や感想、木村元校長先生への想いを話していたのを思い出した大小原さんが、食事会でまたま一緒にになった木村元校長先生に、講演会に来ていただけないか、とお願いしたことがきっかけとなりました。2017年は高崎健康福祉大学、今年は高崎市総合福祉センターたまごホールにて開催し、どちらも大勢の方がお越しくださいました。また、前日には木村元校長先生をi i t o k oにお招きし、食事をしながらいろいろなお話を伺うこともできました。木村元校長先生がi i t o k oのためだけにお話ししてくださることに、参加者のみなさんが感激されていたのを、昨日のことのように思い出します。この『みんなの学校』のような小学校はあるのだろうか、考えてみました。i i t o k oがあるこの地域の小学校がまさしくそうでした。筆者である私の娘が通う小学校は、全校生徒70人にも満たない小規模な小学校です。全学年とも仲が良く、先生方の目も行き届き、保護者同士も、知らない人はいないほど密接な関係にあります。なかよし学級という支援学級があり、主要教科は別授業ですが、他はほとんどを一緒に過ごしています。発達障害のある同級生とは、幼稚園から10年近く共に学び、歩んできました。発達障害を持っていても、健常でも、同じ環境で学校生活を送り、お互いを認め、高め合っています。なぜ泣いているのか、なぜお友達を

叩いてしまったのか、また、そんな時周りはどう対応したらいいのか。先生方の少しの助言で、子どもたちは自分で考え、行動します。困っている人には寄り添い、がんばっている人を応援し、喜びはみんなで分かち合える。いつの間にか、そんな生徒ばかりの学校になっていました。みんなで同じことをし、いろいろな感情を持ち成長している姿を見て、大人である私も学ぶことがあります。そのお友達がいてくれたおかげで、都会の大きな学校ではできない経験をさせてもらうことができたのです。子どもは意外と、大人より解っていて、子どもたち同士で経験したことをきちんと学び取っています。「中学校に行っても、○○ちゃんと一緒がいいなあ。同じ学校に通えたらなあ。」そんなわが子のことばに涙が出ました。そして、そう思えるような子に育ててくれたなかよし学級のお友達にとても感謝しています。映画『みんなの学校』は、子どもたちが学ぶ、ということの大切さを教えてくれる作品です。大空小学校のような学校が増えてくれたらいいな、という願いを込めて、これからも上映会＆講演会を続けていきたいと思っています。

さて、今までご紹介してきた活動の中で頻繁に名前の挙がる方がいらっしゃいます。i i t o k o応援団、パワフルお母さん軍団の『ビンテージマム』さんです。毎月1回、第4日曜日に市内で開催されるフリーマーケットに、『ビンマム本舗』として出店しています。そして、お母さんの集いのおかたづけ講座の先生、久保かをるさん。久保さんが代表を務める『整理収納計画・くらこことと』さんでは、おかたづけして出たご家庭の不要品をリサイクル・リユースすることを呼びかけています。久保さんとビンテージマムさんが手を取り合い、i i t o k oを支えよう！と応援してくれているこの取り組みは、i i t o k oにとってとても重要です。i i t o k oは、活動資金を得るために、群馬県社会福祉法人・群馬県共同募金会『つかいみちを選べる赤い羽根募金』にエントリーしています。群馬県の課題解決のために活

動している県内の民間非営利団体、9団体がエントリーできるもので、その団体、活動内容などを見たみなさまが、どの団体を支援し寄付したいかを選べる募金制度です。ですから、みなさまからのあたたかいご支援が、iitokoの活動資金に繋がっています。久保さんがリサイクル・リユースを呼びかけ、お母さん方がご家庭の不要品、古着や絵本、書籍、おもちゃ、食器や雑貨などを提供してくださいます。それをビンテージマムさんがビンマム本舗で販売。その売り上げを全額、つかいみちを選べる赤い羽根募金を通してiitokoに寄付してくださっています。居場所を維持していくのはとても大変なことですが、たくさんのあたたかいご支援をいただき、おかげさまでiitokoは4年目を迎えることができています。フリーマーケットで売ってください、と品物を提供してくださるお母さん方も増えました。iitokoを支えてくださる輪がとても大きくなっていることを実感しています。

今までにご紹介した以外にも、ヨガ教室や、みんなでおかずを作つて持ち帰る料理教室などのワークショップや、踊りのお稽古にiitokoを使っていただいたり、発達相談、専門機関の紹介なども行っています。1か月の予定を掲載し発行している月だよりは、毎月、県、高崎市、富岡市、藤岡市の特別支援学校で、児童への配布をお願いしています。

民間団体である『がんばるお母さん支援事業iitoko』として、群馬県高崎市吉井町の本郷地区に活動拠点を置いてからもうすぐ4年。iitokoの活動の中で見るお母さんの笑顔は、私たちの原動力となっています。大好きなお母さんの笑顔は、子どもたちの笑顔に繋がります。地域の方々も、踊りのお教室として通われていたこのお宅に戻ってきてくださいました。地元の小学校は、iitokoの周年祭で何をしようか、と私たちが悩んでいた時、帰りの会で取り上げ、参加できる生徒を募ってくださいました。担任の先生が授業の最初にソーラン節の練習をしてくださり、生徒たちは周年祭当日、

力強いソーラン節を披露してくれたのです。iitokoで夏まつりを企画した時、地元の中学校はボランティアを募ってくださり、13名の生徒に、準備や片付けなどのお手伝いをしていただきました。これもiitokoが、地域の一員として受け入れていただけた結果だと思っています。地域だけでなく、群馬県こども家庭課をはじめとした行政や、群馬県社会福祉協議会、群馬県共同募金会など、iitokoの活動を理解し応援してくださる方も増えました。群馬県発達支援センターでも、iitokoに行ってみて、と紹介していただけるほどの団体になりました。おかげさまで、iitokoに来てくださるお母さんは年々増えています。iitokoの活動を、地元新聞社は繰り返し取り上げてくださいます。たくさんの方が、iitokoの事業が長く続きますようにと願い、支えてくださっています。そして、7月。群馬県地域づくり協議会『群馬ふるさとづくり賞』をいただきました。全員がボランティアということに驚いた、iitokoの活動がお母さんの応援団というキャッチフレーズにふさわしい活動をしている、行政ではなかなか手が行き届かない分野に取り組み、孤軍奮闘でがんばる愛と勇気と行動に心から拍手を（群馬県地域づくり協議会通信ひゅうまにあ／VOL.76講評より引用）、というご講評をいただきました。「これからもこの活動を続けて行こう。やさしい社会を作りたい、という志を持ち続けていこう。」と、あらためて決心しました。そして10月25日に、特定非営利活動法人iitokoとなりました。これからも地域に根ざし、障がいへの理解と支援を深め、『必要とされる居場所づくり』、『やさしい社会づくり』を目指して活動していきます。

※掲載している団体名・氏名等の個人情報は、ご本人の承諾を得ております。